

小西喜代次議員の賛成討論

ただ今上程されています意見書案第22号「イージス・アシュア」の配備中止を求める意見書の提出について、賛成の立場から討論します。

日本のミサイル防衛は、「北朝鮮の中距離弾道ミサイル開発」を契機に、2004年度から導入されました。政府は当初、導入経費を「概ね8000億円から一兆円」と説明していましたが、今年度までに、すでに2兆588億円にも達しています。政府は、さらに増強をすすめるようとしています。その代表が陸相配備型迎撃システム「イージス・アシュア」です。防衛省によれば、米ロッキード・マーチン社製の最新鋭レーダー「LMSSR」を含む本体だけで約1340億円。計上可能な範囲だけで導入経費が約4664億円に達するといわれています。

これら費用に含まれない施設整備費や燃料費などのほか、1発数十億円とされる新型迎撃ミサイルの調達費を含めれば、総額は6000億円を超えとも試算されています。

しかも、「イージス・アシュア」は、米政府の「有償軍事援助」などにより取得することになっており、価格は米政府の見積もり任せで、導入の背景にトランプ米政権による兵器購入圧力があることは明らかで、今後さらに高騰する危険もあります。

さらに、契約先の米政府は1基目の配備に約6年が必要とし、防衛省が想定する2023年度の運用開始にも間に合いません。朝鮮半島で始まった平和のプロセスに逆行するだけでなく、政府の言う導入根拠が破綻している実態を浮き彫りにしています。

こうしたことから、自民党内からも「イージス・アシュアを導入しても、北朝鮮からの攻撃の全てに対応することは大変難しいのではないか」という声が後を絶たないように、100%の迎撃は不可能だというのが専門家を含めた常識です。いくら巨費を投じて、「ミサイル防衛」に「限界」があることは明らかです。

導入の口実としている朝鮮半島情勢は、4月の南北首脳会談と6月の米朝首脳会談によって核戦争の脅威から抜け出す扉が開かれました。防衛省も北朝鮮のミサイル発射の可能性が低下したことを受け、住民参加の避難訓練を当面中止し、北海道や中国・四国地方に展開していた迎撃ミサイルPAC3部隊を撤収しました。こうした動きに照らしても「イージス・アシュア」に固執することは完全に矛盾しています。

それでも、日本の政府・防衛省は、「北朝鮮の脅威は変わらない」として、「ミサイル防衛」網の増強を変えていません。

弾道ミサイル攻撃を回避する最も安全で有効な手段は、「撃たせない」ことにつきます。北朝鮮の弾道ミサイルをめぐるのは、いままさに、「撃たせない」ための外交努力が強まっています。日本政府がやるべきは、こうした平和の流れの後押しではないでしょうか。

陸上配備型迎撃システム「イージス・アシュア」の配備は、計画では2026年頃といわれています。仮に敵対国が新たな弾道ミサイルを開発すれば、それに応じて一から導入することになるというのがこの計画です。

よって、陸上型迎撃システム「イージス・アシュア」の配備計画を中止するよう強く求めるものです。

議員各位のご賛同、ご理解を得て、甲賀市議会から意見書が政府並びに関係機関に送付されますよう、お願い申し上げます。賛成討論とします。